

## 挨拶

神戸大学副学長 北村新三

神戸大学学術情報基盤センター設置記念式典にあたりまして、一言挨拶申し上げます。

神戸商船大学との統合をより充実したものにするために、去る4月1日に学術情報基盤センターが新設されました。この組織の淵源は1982年（昭和57年）に全国で第3番目に設置されました総合情報処理センターでございます。この総合情報処理センターは設置以後、教育、研究、事務や図書館への支援に努力をして参りました。この間、その責務を果たされました歴代のセンター長と教職員の方々に敬意を表する次第です。

さて、本学は六甲、深江、楠、名谷地区にキャンパスが分散しております。学術情報基盤センターの第一の使命は、このように分散したキャンパス間を情報ネットワークで密に連携させることとあります。次に、これは言うまでもないこととありますが、大学は「知の創成拠点」であり、学術情報基盤センターはその中核でなければなりません。それであってこそ、センターが情報の分野での主導権を握り、学内の諸組織の協力を得ることができると思います。

ご存知のように来年4月から、国立大学は、大学法人に改組されます。その内容につきましては今、いろいろのところで議論がなされているところとございますが、財政の問題、あるいは人的資源の問題においても、楽観を許すような状態にはありません。当然ながら学外の諸機関といろいろの面で競合が生じてくるでしょう。また、学内においても組織の存亡は、ひとえに、それを構成する方々の発想と努力によるものと思います。

情報ネットワークは技術革新が目覚ましいところではありますが、並行して倫理面においても問題をさらけ出しつつあるかと感じられます。現在、センターを中心に情報セキュリティの問題に対処して頂いている段階でございますが、この面におきましても、今後、このセンターの役割が大学において重要な位置を占めることは言うまでもありません。そのような役割を果たすところの本センターの発展のために関係各位のご支援をお願いいたたく存じます。

最後に、このセンターの設置にあたりましては、文部科学省のご理解を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。また、学内、学外の多くの方々のご協力を頂いております。併せてお礼を申し上げます。